

第18回1・2年次生への適応援助のための連絡会を開催

●学生相談総合センター

学生相談総合センターは、7月22日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第18回1・2年次生への適応援助のための連絡会「ひきこもる学生－名古屋大学の現状について－」を開催しました。この連絡会は、各学部における1・2年次生の指導教員等が、同センターと連携しながら学生への指導・援助を進められるよう、毎年テーマを定



連絡会の様子

めて平成8年度から開催しており、学生相談総合センターからの学生の現状報告や講演等を踏まえ、同センターと参加者との情報交換等を行うことにより、情報共有や学内におけるネットワークの構築を図ることも目的としています。

まず、植田学生相談総合センター長のあいさつの後、約40名の参加者に対して山内星子同センター学生相談部門特任助教から、新入生アンケート及び取得単位が極端に少ない学生の実態についての報告があり、引き続き、古橋忠晃メンタルヘルス部門助教から、本学におけるひきこもり学生の特徴や事例、ひきこもりが増えた背景、さらにはひきこもる学生を立ち直らせるための手法の一例についての講演がありました。また、鈴木健一学生相談部門准教授及び船津静代就職相談部門助教から、それぞれの部門から見たひきこもり学生の実態やその対応方法等についての報告がありました。

引き続き行われた全体討論等においては、参加者から各報告等の内容を踏まえて、日常において感じている学生達の現状等について発言があり、その対応等についての意見交換が活発に行われました。

第92回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月19日(金)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第92回防災アカデミーを開催しました。今回は、日本気象協会参与である新井伸夫氏による「聞こえない音を聴く－気圧を測ると津波もわかる?－」と題した講演が行われ、96名の参加がありました。

新井氏は、初めに、東日本大震災の津波が発生させた気



講演する新井氏

圧変動が、沿岸から50km離れた内陸の岩手県水沢市に設置された気圧計で観測された事例をもとに、津波警報をより早く正確に発表するための精密気圧観測データの活用について紹介しました。また、こうした気圧観測の背景として、CTBT(包括的核実験禁止条約)による世界規模の観測ネットワークの整備と、気圧観測機器の仕組みに関する紹介があり、桜島の爆発噴火や、今年、ロシア隕石によって起こされた気圧変動の記録を事例に、データの実例とその読み解き方について説明がありました。最後に、精密気圧観測のネットワークと観測体制の構築について展望が示されました。

会場からは、講演内容を踏まえ、気圧変動を用いた津波警報の有効性について活発に質問がありました。